

常盤塾

日時：2015年12月12日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 東野祐香里（前半）、三藤剛照（後半）

メンバー：常磐さん

次回に向けての連絡

（1）1分間スピーチ

- 丸山さん：「その人は本当にお客様ですか？」
取引先…安く仕入れたいという思惑から値引き
何に困っていてどうすれば解決できるか、人の為に考える
- 安梅さん：日本の介護保険への賞賛…当事者の意思決定と予防
不足…当事者を資源として活用していない。ここが大切
- 松山さん：日本の上場企業…3500社/40000社
アメリカの上場企業…4100者
インド…5200社←世界一
スペイン…3100社
ドイツ…665社
→上場に注目してどうなるのか？
- 片平さん：『禅と日本文化』より「わびの真意は貧しさ」
- 上原さん：グローバルとマルチナショナル
マルチナショナルで日本に必要なビジネス教育とは？
どんな社会人をブットアウトしていくのか
- 大下さん：縄文 無為無策
DNAの北海道のアイヌの人と沖縄の人のものが一致するという事実
- 松永さん：コンピューターサイエンスをどうするのか
カルテック コンピューターサイエンスを扱う人には生物学が必修
違う分野、違う感覚のものを取り入れないと実現出来ない
教育を変える必要性
- 臼井さん：ミラノ万博で日本が金賞
日本の文化、おもてなし、自然の恵 etc
日本の食が注目されると思う

- 出井さん：アトラクションのみならずレストランも非常に混雑
トイレの外まで長蛇の列
安税制を考慮して綺麗にしているはずなのに床が掃除されていない
→収益の方へ走っているのでは？間違った印象
- 古城さん：国際ロボット展
産業ロボットの進歩
将来雇用が無くなるのでは…人はどうやって働くのか
- 古川さん：マーケティングの効率性
物理的なものとしての人工知能
“意識する”こと
- 常盤さん：スウィングバイ
パネルの横にてるてる坊主
超ハイテク、超ローテクの二つの焦点
楢岡軌道という心の軌道
人工知能になればなるほど“人”という要素が大切になる
J：アンドロイドの可能性 マツコロイド
…アンドロイドを作る上で大切なのは人間を観察すること
- 松崎さん：達成する為に必要なことのプランニング
試合をしながらのフィードバック
試合に出られなかったキャプテン、広瀬選手「チームが好き、メンバーが好き」
試合に出る人と支える人
- 片平さん：ネットで小言を言うのはスタイリッシュではない
ちょっとした表情を読んで対応すべき
大きな企業に入ったアントレプレナーシップも行うべき

(2)常盤さんのお話

小さな暁が大きな夢、人生の喜び与えてくれる

“みる”ということ

見る、視る、観る、看る、診る、廻る

自然資本の経済学

天候そのものが自然ではないか。金だけが資本ではない

能力も資源

社会経済に移行、歩み寄りをしないと公害問題は行き詰まる

森・里・川・海プロジェクト…自然資産をしっかりと活かす

マルシェ一人一人観る場所、観ているものが異なる ex.食べ物、雰囲気

マーケットは雰囲気を楽しんでみて回るもの。色々な人がいる

みる時、自分にはどのような価値観があるのか

みることを通して自分判断で物事を処理する

みることを正当化出来る理由には価値がない

直感と直観の違い

直感…説明無しに対象を感じる（目で見える）

直観…自分の頭で対象を把握する（頭でみる）

目の奥に有る柔らかな脳でみていることになる

脳、身体と関わる部分でみている

キャンパスの場所によって書きやすいところと書きにくいところがある

視角≠死角

みるところ、見方が異なる

人は何を見ているのか…本質的な多様性

- 古城さん：自分で問題意識を持つてみることも大切
- 安梅さん：資源経済学の“資源”は人的資源？
自然資本の中に含まれないものは金だけ？
- 常磐さん：動物と人間とが共存していく
森は水を貯える貯水池のような役割なのに、それを金銭で壊そうとしている
- 松永さん：心眼（心の目）でみる、酔眼
医者はコンピューターの検査結果で患者を診る
難語にするロボット、ロボットのゴミを拾う人間
人は自然資本？…人工物に合わせた時間を過ごすようになると人間は労働力の資本になる
- 上原さん：人間は一ヶ所に集中する方が良い
どういう暮らし方をするか
F：子どもは自然資源として育ってきた
- 松永さん：相手の持っている自然的な時間を感じる
今後はコンピューターのビジョン
- 古川さん：インドネシアは焼き畑でたいへん
- 常磐さん：考えるとどこまでも行く
- 出井さん：見たけど印象に残っていないもの、あるいは忘れているものは“見ていない”
もの

- 常磐さん：目がそっちに向いているからといって見ているとは限らない
- 片平さん：目では仮想的に見ただけでも記憶に戻ってくるものがある
余計なことを考えなければ伝わる
- 松永さん：時間の感覚も含めてみる
山の時間感覚、山の極めて長い時間
- 片平さん：3ヶ月先のために動くか、60年先のために生活するか
- 松永さん：長いレベルの家族
安ければよいわけではない

(2) 「良心」から企業統治を考える

資料参照

- 古城さん：この本は言っている通りだと思うけど、実際にはどのようにして実行可能なのだろうか。
- 上原さん：育つプロセスが良心を育む環境でなくなったら難しいのではないかな。
- 大下さん：経営者をスキルとして考えるやり方とこの本の考えのマッチングの問題。
- 古城さん：日産はゴーンさんが来て、外からみたらよかったとなっているが社員からしたらどのように思っているのか。
- 古城さん：社長自身が経営スキルをもっているとはいえない。車を作ってきた人なので。
- 片平さん：Honda の場合は Honda への愛
- 古城さん；人間を TOYOTA が people と約しているのに対して、Honda は individual と訳しているのは個人に目を向けている。
- 片平さん：Honda じゃなきゃだめだ、みたいな人じゃなくて、就職偏差値みたいなのでどこでもいいって人が入ってきちゃっている。自分たちの世代は偏差値ではかられるので「名」だとかに弱い。そのような人じゃない人が HONDA とかにいる。
- 安梅さん：本当は愛から企業統治を考えるといった名前のほうがいいかもしれない。
- 丸山さん：法律などには抜け目があって通り抜けられるけど、道理はごまかせない。
- 常磐さん：いくら仕組み作ってもだめだと思う。仕組みを作っても社員がそれに賛同しないと機能しない。アメリカ流は上から目線だが、日本の方法としては下から見る文化であり、社員のほうから見た企業の仕組みがどのようなものなのか考えないといけない。
企業文化とはなにか。それは組織に漂う気。漂っているかどうかは人間だからわかる。言い

換えれば「出汁」。

- 常磐さん：予算なんてないと言う話し、世の中変わっているのに予算と比較して〇〇と言って話しは意味が無い。予算だけだとしても下からの押上げが無いと盛り上がっていかない。情と理が重ならない仕組みは成り立たない。
- 臼井さん：農家と直売所のJAが売上げを上げるにはどうしたらいいかといった議論ができる組織になったら下から押し上げられるよい組織になるのではないか。
- 常磐さん：人の影響を大きく受けたくなければ上場しないほうがいい。しかし、昔は上場していたほうが資金が集めやすかったからやっていたけど、そのような問題が無ければ上場しないほうがいい。
- 松山さん：日本の中小企業は99.7%で大企業が0.3%だけど雇用者数は30%ほど。これに関してはドイツと日本は似ているけど、上場企業数は大きく差がある。
- 片平さん：政策投資銀行とか良い地銀は、中小企業を自分ごととして支援しているところもあって見直されている。
- 常磐さん：人間ってなんだっていう青臭い議論をしながら、その中で日常をいきっていくことで摩擦がおきる。そこで新しいものが生まれていくのでしょう。
- 松崎さん：エディジャパンの話しで、マインドセットの話しに結びつけると戦術の話し以前にその人たちが当事者として自ら働きかける必要がある。